

姫天だより

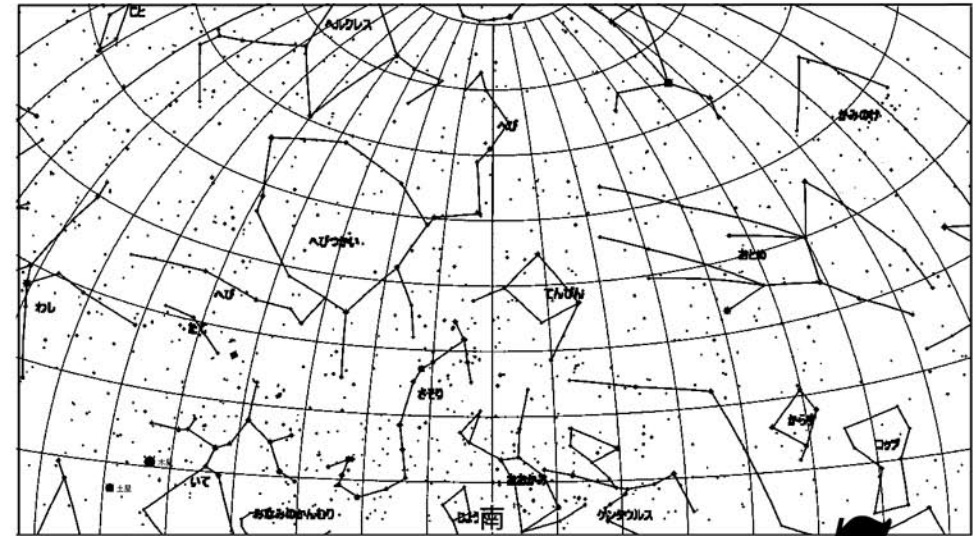
見どころとしては頭部の5番目の星北西約0.5度のところにある球状星団M5ヘルクス座のM13に比べても見劣りしないもので、双眼鏡でも星雲状に広がった様子が分かります。口径10cm以上あれば周辺の星ぼしが見え出し、20cmクラスであれば球状星団の名のとおり星ぼしがボール状に集まっていることが分かります。

また、しっぽの先の4.1等星はアリア（蛇の意味）という名前がついていますが、4.5等と5.4等の星が2.2秒離れてめぐりあっている連星で望遠鏡を使えば2つの星がくっついていることが分かります。

★今月のテーマ 木星・土星を観る会

木星、土星は天の川の東側、木星はいて座の南斗六星の東に輝き、土星はいて座とやぎ座の境界あたりに輝いています。太陽系最大の惑星木星の縞模様と4つのガリレオ衛星、そして環のある土星をあなたの目で見てみませんか？

今年の夏休みは、木星、土星が見頃です。そして10月に向け火星が2年2か月ぶりに地球に接近しています。地球の仲間の星たちを楽しみましょう。



7月15日午後8時の南の空

★今月の星座 へび座

月号
2020

7月中旬の夜8時頃にこの星座の頭の部分が南中する。地平線から60度あたりを通過していくので、梅雨の晴れ間の澄んだ夜空であれば、可児市の夜空でも蛇の頭の星がみつければ、蛇の姿をたどることができます。

蛇の頭の部分と変な言い方をしたのは、この星座は、ひとつの星座でありながら頭としっぽの二つに分かれているからです。しっぽの部分は1ヵ月後の夜8時ごろに南中するのですが、むしろこの蛇を持ったへびつかい座と一緒に探したほうが見つけやすいのかもしれない。医者の神様アスクレピオスが手にしている巨大な蛇がこの“へび座”なのですが、へびつかい（アスクレピオス）によって頭の部分としっぽの部分に分けられています。西側の部分がセルペンティス・カプト（蛇の頭部）、東側の部分をセルペンティス・カウダ（蛇の尾部）と言います。

かんむり座の南に3つの4等星が小さな三角形を作っているのですが、この蛇の頭が見つけられると意外と簡単に蛇の星ぼしをたどることができ、姿が描けると見つけることが楽しい星座だと思います。

一番明るい星は2.7等星ウヌク・エルハイア（蛇の首）という名前がついています。この星は蛇の心臓あたりにポツンと光っていることから別名、コル・セルペンティス（蛇の心臓）とも呼ばれています。

神話では、医神アスクレピオスが、なぜ蛇を持っていたかということ、この蛇は健康のシンボルと考えられていた神聖な蛇だからです。冷静さ、回復力、洞察力、薬草を見つける能力などを意味していたと言われています。

裏面に続く

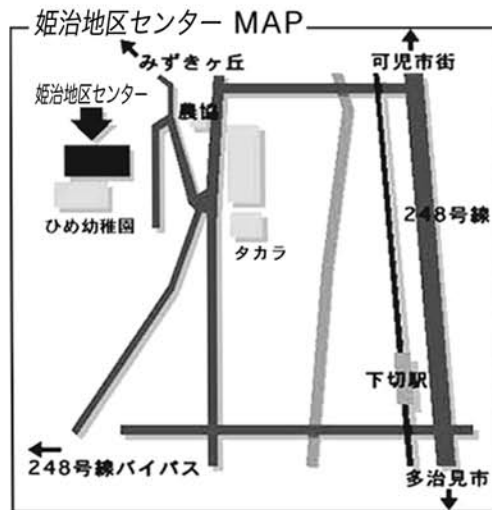
-次回の天文クラブ-

●7月の星を見る会

7月の例会はコロナウィルス対策により中止になりました。

●8月の星を見る会

8月22日(土)午後7時30分より
伝統的七夕
夏の星座観察



JR太多線下切駅より徒歩13分
2020年7月1日発行

姫治地区センター
岐阜県可児市下切 1530
☎0574-62-0104
姫治天文台
<http://himeziten.yu-yake.com/>

※観望会についてのお問い合わせは
姫治地区センター (62-0104) まで